

大学図書館トップページのガイドライン

佐藤千春・森嶋桃子・佐藤普巨・長谷川豊祐・上田修一

抄録：大学図書館のトップページは、自然発生的に出現したが、掲載内容が増え、複雑化する大学図書館サイトを整理する役割が強まる一方、利用者を惹き付ける工夫も必要となってきた。大学図書館の顔として個性的でなければならないが、標準的な構成も求められると考え、「ガイドライン」の形で試案を作成した。検討に当たり、これまでの調査事例を踏まえ、国内外の大学図書館サイトを通覧し、国内の大学図書館のトップページの分析を行った。その結果に基づいて、「構成」、「内容」、「表示・レイアウト」、「技術」の大きな分類のもと、優先度を付した28項目からなる「大学図書館トップページのガイドライン」を作成した。

キーワード：大学図書館、ウェブサイト、トップページ、ガイドライン、インターネット、図書館サービス

1. はじめに

大学図書館において、インターネットは言うまでもなく業務に欠かせないツールとして広く普及している。とりわけ、大学図書館が情報を発信する場として、ウェブサイトの重要性は高まる一方である。

日本でウェブページの作成が一般化したのは、1994年頃からである。大学は、企業や官庁などよりも早くからインターネットに接続していたため、大学図書館のウェブページも比較的早くから作られていた。1994年7月に開かれた「第23回jus UNIXシンポジウム」で千葉大学の檜垣泰彦らが発表した「千葉大学附属図書館の利用者のための情報システム(culis)」¹⁾の予稿に、「このようにgopher, WWWを利用してインターネットへ情報公開を行っている図書館は千葉大学附属図書館が日本では初めてであると思われる」という記載があり、千葉大学附属図書館が日本で最初にウェブページを作った図書館とみなすことができる。

当初、ウェブサイトやトップページといった概念はなく、与えられたサーバーに自発的に、また個別的に作られたウェブページの集合体が存在していたに過ぎない。しかし、次第に管理者が決められたり、委員会が作られたりして、組織的な対応がなされるようになった。一時は行き過ぎて、「オフィシャル」なページの内容を厳格に定めようとしたり、ウェブページのデザインやロゴを統一しようとする動きもあったが、最近では、組織内の各部門のサイトは、比較的自由に作成されるようになった。一方では、広島大学のように、ユニヴァーシティ・アイデンティティ(UI)活動に取り組み、ロゴタイプやシンボルマーク、カラーなどの視覚的要素を全学で共通化しようとする例もみられる。

また、「ホームページ」という語は、ウェブサイトとトップページの両方を示すので曖昧であるとさ

れ、使用が避けられる傾向にある。

さて、1997年には、国内の大学図書館の三分の一を超える191館が独自のウェブページを持っていた。その後の推移は、図1に示すように急速な増加を示し、2004年には9割近い610館がウェブページを持つに至っている。なお、この間に大学数は555校から690校と135校増えている²⁾。

大学によって図書館のウェブページの状況は異なる。サービス案内だけのページしかない図書館から電子図書館機能を備えた巨大なサイトまで様々である。大学全体でサイトの作成と管理を委託したり、図書館用パッケージをそのまま利用したりする例もあるが、大多数は、独自のサーバーを持ち、図書館員により作成、維持されているとみられる。

ウェブサイト作成業務が外部に委託される場合でも、日々の管理は図書館員自身が行う必要がある。しかし、図書館員がウェブサイト構築に関して専門知識を有しているとは限らない。また、ウェブサイト構築を委託されるすべての業者が、図書館に対し深い理解があることを望むのも難しい。利用者にとって使いやすく、また図書館員が作成・管理しやすいウェブサイト構築のためには、ある程度の基本的な指針が必要であると考えられる。特に、トップページを作り替える際には、他の図書館サイトの例を調べるが行われている。

こうした状況で、「大学図書館トップページのガイドライン」³⁾(以下「ガイドライン」とする。指針の全文は表3)には一定のニーズがあると考え、作成を試みることにした。

ガイドライン作成にあたっては、大学図書館の蔵書やサービスをどのように整理して提示するかについて検討した。利用者がウェブサイトを評価する基準は様々であるが、トップページとしてはそれぞれの図書館の独自性を示しつつ、一定の標準的な項目

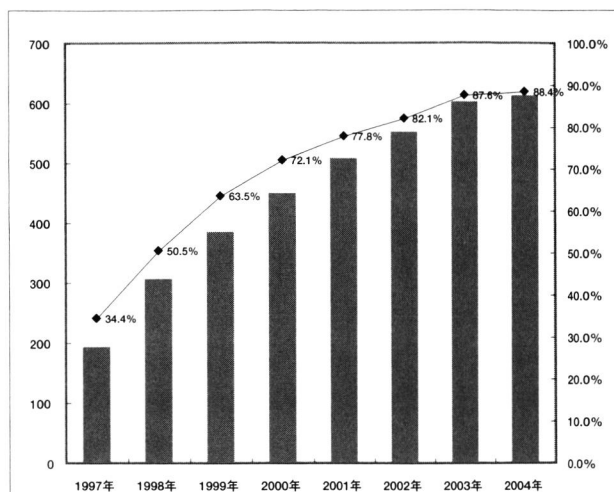


図1 国内大学図書館ウェブページの動向

を掲載し、共通した内容、レイアウト、技術を用いる必要があると判断した。

2. 「大学図書館トップページのガイドライン」作成の経緯

大学図書館のトップページを作成する際に、まずトップページの目的から掲載内容やデザインなどを考えていくアプローチがある。

大学図書館のトップページは、言うまでもなく複数の目的を持っている。図書館サイトの目次の役割を担う一方、その図書館の「顔」でなければならないとされる。しかし、図2のように、大学図書館トップページの利用者は、サイト内から、あるいはサーチエンジンによる検索、リンク集、大学のトップページなどから辿ってくるのであり、大学について調べている受験生から特定のページを探す学内利用者まで様々であって、大学図書館トップページの目的を幾つかに絞ることはできない。細かく列挙するのは、煩雑となるだけである。企業や団体のウェブサイトのトップページの意義や目的は、その構築、維持にあたる人々の間で漠然と共有されていると考えられ、これは大学図書館でも同じである。

そこで、まず、既存の文献と多数の大学図書館トップページを調査することにより、ガイドラインの骨格を作る方法を採用した。

これまで、大学図書館サイトを扱った文献は、国内外に数多くあるが、ほとんどは、*The library Web*⁴⁾のような事例報告である。多数の大学図書館のトップページを調査し、その掲載内容を比較したものにストーバーとツィンク⁵⁾、コーヘンとスティル⁶⁾の報告がある。その一つである133館を調査したトルッパネンら⁷⁾は、トップページの掲載内容をナビゲーションツール、図書館についての情報、情

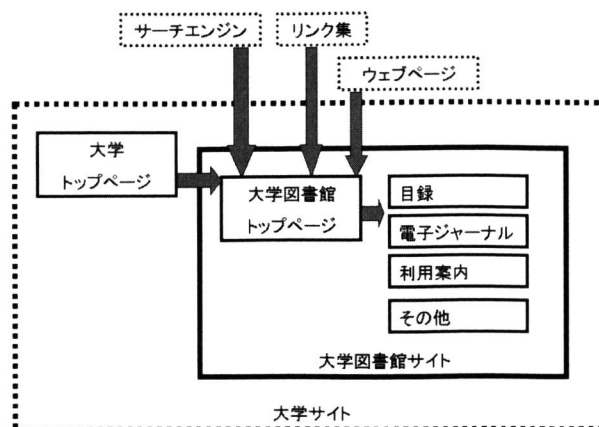


図2 大学図書館トップページへのアクセス経路

報サービス、検索フォーム、図書館の方針、図書館内の各部門のページ、リンク、利用案内と資料案内などに大別し、これらを構成する要素の掲載館数を集計している。ソング⁸⁾は、2003年にウェブサイト作成マニュアルで、図書館サイトの内容として、図書館についての情報、内部の情報源、外部情報源、図書館サービス、利用者援助、その他の情報源をあげている。

以上のような文献調査を行う一方で、各種のリンク集（URLリスト参照）を利用し、内外の数百の大学図書館トップページを調査した。調査は、まずガイドライン作成者それぞれの視点で構成やデザインが優れていると感じる大学図書館トップページを紹介し合い、優れていると感じた根拠を議論することから始めた。その結果、大学図書館ウェブサイトの目的を（1）図書館の持つ情報源やサービスを体系的に紹介する（2）図書館まで出かけなくても目的が達せられるよう、図書館の代替機能を提供する（3）図書館の存在や能力をアピールする、の3点にあるととらえ、トップページはウェブサイトの目次（メニュー）であり、構成やデザイン等により訴求力を高める機能を持つものであると位置付けた。この観点をもとに、何を以って良いと判断するかについてさらに議論を重ね、それらの共通点を抽出して項目のグループ化を行った。

指針のスタイルに関しては、富士通ウェブ・アクセシビリティ指針⁹⁾を参考にし、優先度をつけた。

なお、作成者は、慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻に開設された、現職図書館員を対象としたコースに所属する大学図書館員である。大学図書館ウェブサイトを実際に作成する側であり、同時にウェブサイトのヘビーユーザーでもあるという立場を、ガイドライン作成に活かすよう努めた。

3. 「大学図書館トップページのガイドライン」解説

3.1 概要

このガイドラインは、「構成」4項目、「内容」10項目、「表示・レイアウト」7項目、「技術」7項目、の合計4グループ、28項目からなる。

まず「構成」で大学図書館サイトの掲載内容の分類型を示し、「内容」で、分類とは別にトップページに表示することで、ウェブサイトがより使いやすくなるような項目を取り上げた。「表示・レイアウト」ではデザイン面の指針を示し、最後に利用環境やメンテナンスに関わる「技術」に触れている。

各項目には優先度1または2を設定し、大学図書館トップページとして備えておくべき基本的な情報や機能は優先度1とした。図書館や図書館資料の利用という観点から見て必須でないものは優先度2としたが、適用すれば、より利用価値の高いトップページとなることが期待される項目である。

3.2 「構成」と「内容」

「構成」と「内容」については、実際の大学図書館トップページの現状と比較しながら紹介したい。ウェブサイトの構築に熱心な大学図書館は数多いが、ここでは、歴史があり、大規模な蔵書を持つ大学を中心に、設立母体別に20の大学図書館のトップページの構成を調査し(URLリスト参照)、「構成」との比較を表1、「内容」との比較を表2にまとめた。

各大学において学内の複数の図書館や学術情報システム全体のトップページと中央図書館(およびそれに類する館)のトップページとが別になっている場合は、項目のより充実しているものを、その大学図書館を代表するトップページとして調査の対象としている。

3.2.1 「構成」

利用者が大学図書館サイトから得ようとする情報の性質から、掲載内容を「1:図書館資料」「2:利用案内」「3:サービス一覧」「4:図書館紹介」の4つに分類した。これを現状と比較すると表1のようになる。

「1:図書館資料」については、現状では「蔵書検索/データベース/電子ジャーナル」といったように、さらに細かいグループに分けているところが多い。大規模な図書館の場合、所蔵コレクションも多岐に渡るため、各図書館が必要に応じて細かくグループ化することは自然であろう。このような実情を踏まえ、各図書館の状況に合わせて柔軟に適用できるよう、ガイドラインでは図書や雑誌、視聴覚資

料、電子化資料など、あらゆるメディアを含めることとし、メディア別などの細かな分類は避けた。OPACや文献探索案内などの資料探索ツールも、図書館資料と一体を成すものとしてこの分類に含めている。蔵書検索を学内と学外とに分けているところもあるが、同様の理由で、ここでは特に区別していない。

「2:利用案内」は、貸出冊数・期間や開館日・開館時間など、現状でも内容はほぼ共通していると言える。学外者向け利用案内や交通案内、施設案内などが別項目になっているところもあるが、来館して利用するときに必要な情報であるという点で共通することから、ガイドラインではこの分類に含めている。

「3:サービス一覧」は、独立した項目となっているところは現状ではあまり見られない。ウェブページからのILLや複写の申込が独立した項目として立てられていても、サービス内容の説明は利用案内など他の項目の下に含められている場合が多い。しかし利用する立場に立った場合には、サービスの案内と申込画面とは同一の分類の下にある方がわかりやすいと思われる。オンラインを含めた「サービス一覧」として、独自にグループ化することが必要であろう。

「4:図書館紹介」については、ほとんどの図書館トップページで項目が設けられている。「1:図書館資料」や「2:利用案内」ほど利用に直結する情報ではないため優先度は2としたが、項目名を「広報」としている図書館がいくつかあることからわかるように、活動内容をアピールする上で重要な項目である。現状でも、図書館概要や図書館報だけでなく、各種報告書や図書館が発行した文献調査ガイドの掲載など、各大学の独自性が発揮されていて興味深い。

3.2.2 「内容」

掲載内容のうち、「構成」にあげた分類とは別に独立してトップページに表示することで、ウェブサイトがより使いやすくなるような項目を取り上げた。「5:ニュース」「6:大学トップページへのリンク」は表2のすべての図書館トップページで項目があり、「9:学内のほかの図書館へのリンク」も、ほぼすべての図書館でトップページからのリンクがある。これらの項目の必要性については、大学図書館側に広く認知されているものだといえるだろう。学習、教育、研究を支援するという大学図書館の役割からも、これらの項目は大学図書館トップページに不可欠である。「13:大学のシステム部署へのリ

表1 国内大学図書館トップページの現状調査（「構成」）

指針	1 図書館資料	2 利用案内	3 サービス一覧	4 図書館紹介
優先度	1	1	1	1
北海道大学附属図書館	○(蔵書検索/電子情報サービス/資料案内)	○	○(オンライン申込/ * 利用案内)	○(広報・刊行物)
東北大学附属図書館	○(情報検索)	○	○(MyLibrary)	○(図書館概要)
東京大学総合図書館	○(蔵書検索/コレクション)	○(利用案内/館内案内)	△(* 利用案内)	○(総合図書館について)
名古屋大学附属図書館	○(文献検索/電子ジャーナル/電子コレクション/ OPAC)	○(上部タブ/学内分館 & 各図書室情報)		○(広報/館長のページ)
京都大学附属図書館	○(蔵書検索/電子図書館/ 学内向けサービス/ * 附属図書館刊行物等 (文献調査・利用ガイド))	○(* 学外者の方へ/ * 附属図書館案内)		○(附属図書館案内/ 附属図書館刊行物等)
大阪大学附属図書館	○(蔵書目録/データベース/ 雑誌, 電子ジャーナル/ 電子化コレクション)	各分館の下	各分館の下	○(広報)
九州大学附属図書館	○(* Services)	○(* Guides)	○(* Services/* Guides (図書購入依頼))	○(* Guides)
東京都立大学付属図書館	○(蔵書検索/情報検索)	○(図書館案内)	○(* 図書館案内/各種依頼)	○(* 図書館案内)
横浜国立大学学術情報センター	○(* 利用案内/蔵書検索/ 資料案内/オンライン情報 検索/資料案内)	○(利用案内/* 学内者サ ービス/市民, 学外利用 者の皆様)	○(* 利用案内/* 学内 者サービス)	○(* 資料案内)
名古屋市立大学総合情報センター	○(* 図書館サービス(蔵 書検索)/データベース/ 電子ジャーナル/* 各種 情報源へのリンク(国内 OPAC))	○(* 図書館サービス)	○(* 図書館サービス)	○(* 図書館サービス/ 総合情報センターについ て)
大阪市立大学学術情報 総合センターライブラ リーサービス	○(蔵書検索/電子図書館 サービス)	○	△(* 利用案内)	
早稲田大学図書館	○(情報検索/蔵書検索/ 統合検索/DB, 電子ジャ ーナル/展示・イベント情 報)	○	Libraries の各図書館の下	○(* 利用案内/図書館 刊行物)
慶應義塾図書館	○(* 図書館案内/* OPAC+リンク集/デー タベース/慶應アーカイブ)	○(図書館案内/利用案内)	○(* 利用案内/オンライ ンリクエスト)	○(* 図書館案内)
明治大学図書館	○(WWW-OPAC/電子図 書館/* デジタル情報源 案内)	○(図書館利用案内/卒業 生の方へ/学外者の方へ/ カレンダー/* デジタル 情報源案内)	各分館の下	○(図書館刊行物/* 図書 館利用案内(各館の紹介))
立教大学図書館	○(蔵書目録検索/学外の 蔵書目録/モバイルサー ビス(mobile OPAC)/ * 刊行物等(OPAC 検索ガイド))	△各分館の下。トップペ ージにはカレンダーとア クセスマップのみ	各分館の下	△(刊行物等)
法政大学図書館	○(蔵書目録検索/デー タベース/パスファイン ダー/利用ガイド)	○(* 学外者の方へ/ Information/* 図書館案 内/交通案内)	○(* 学外者の方へ/* 図 書館案内/* Information)	○(* 図書館案内(図書館 概要))
同志社大学総合情報セ ンター	○(* 図書館の利用)	○(* 図書館の利用/パソ コンの利用/ネットワー クの利用/マルチメディア 環境/マニュアル・手続 き・規程/開館・開室時 間一覧/施設案内マップ/ お問い合わせ先)	△(* 図書館の利用)	○(概要・歴史/総合情報 センター報)
立命館大学総合情報セ ンター	○(情報検索サービス)	○(* 利用者サービス/ 開館スケジュール/規定 ・利用要項等)	○(* 利用者サービス/ MyLibrary)	○(概要/刊行物等)
関西大学図書館	○(* 図書館案内/情報 検索)	○(* 図書館案内/User's ガイド)	○(オンラインサービス)	○(* 図書館案内)
関西学院大学図書館	○(* 情報検索/デジタル ライブラリ)	○(* 図書館の利用ガイ ド)	△(* 図書館の利用ガイ ド)	○(プロフィール)

注1. ○は「当てはまる」△は「一部当てはまる」をあらわす。

注2. 実際のトップページ上の項目名が異なる場合は括弧で注記した。

注3. 複数の下部項目に分かれている場合は「/」で示した。

注4. より大きな共通の項目に含まれている場合は「*」で示した。

表2 大学図書館トップページの現状調査 (「内容」)

指針	5 ニュース	6 大学トップページへのリンク	7 サイト内検索ボックス・サイトマップ	8 著作権・関連情報の表示	9 学内のほかの図書館へのリンク	10 リンク集	11 OPAC検索窓	12 カレンダー	13 大学情報システム部署へのリンク	14 英語ページ
優先度	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2
北海道大学附属図書館	○(お知らせ)	○	○(ホームページの構成)		○(*リンク集)	○		○		○
東北大学附属図書館	○(お知らせ)	○	○(サイトマップ/サイト内検索)	○(著作権・リンクについて)	○	○(*情報検索)		△(*利用案内(図書館カレンダー))	○(情報シナジーセンター)	○
東京大学総合図書館	○	○	○(SiteMap)	(*利用案内(問い合わせ先))	○(東京大学附属図書館/総合図書館国際資料室)	○(調べものリンク集)		○	○(情報基盤センター)	○
名古屋大学附属図書館	○(NULNEWS/学内分館&各図書室情報)	○アイコンで表示	○(サイト内検索)	○(著作権およびリンクについて)	○(国際経済動態研究センター図書室)	○	○	△当日の開館時間		○
京都大学附属図書館	○(NEWS)	○	○(サイトマップ)	(電話/電子メール)	○(外国雑誌センター館)	○		△(*NEWS(開館日程表))		○
大阪大学附属図書館	○	○		メールアドレス	○分館など	○(リンク)			○(サイバーメディアセンター)	○
九州大学附属図書館	○(News/Topics)	○	○(サイトマップ)	○(ホームページのご利用にあたって)	○各分館	○(Links)	○	△当日の開館時間	○(情報基盤センター)	○
東京都立大学付属図書館	○(お知らせ)	○		住所, TEL, FAX	分館なし	○(*情報検索)		△リンクのみ(図書館カレンダー)		
横浜市立大学学術情報センター	○(Contents)	○		(EMAIL)	○(学術情報センター・関連機関ホームページ)	○(リンク案内)		△(*利用案内(カレンダー))	○(*学術情報センター, 関連機関ホームページ)	
名古屋市立大学総合情報センター	○(お知らせ)	○(Back Home)	○(Site Map)	メールアドレス	○(*図書館サービス)	○(各種情報源へのリンク)		各分館の下	○(*情報システム部門)	○
大阪市立大学学術情報総合センターライブラリーサービス	○	○			○(*利用案内)	○		△リンクのみ	○(学術情報総合センターTop)	○
早稲田大学図書館	○(What's New?)	○		○(本ページの著作権, 使用許諾条件, 掲示責任者の表示)	○(Libraries)	○(*情報検索)		利用案内の下		○
慶應義塾図書館	○(新着情報)	○	○(サイト内検索/サイトマップ)	○(著作権およびリンクについて)	○(*学内リンク)	○(*OPAC+リンク集)	△(*OPAC+リンク集)	△(*図書館案内(開館カレンダー))	○(*学内リンク)	○
明治大学図書館	○(図書館ニュース)	○		○	図書館利用案内の下	○(*デジタル情報源案内/リンク)		△リンクのみ		○
立教大学図書館	○(What's New)	○		○(著作権とリンクについて)	○(立教大学各図書館)	○(リンク)	○	△(*利用案内)		○
法政大学図書館	○(News)	○	○(サイトマップ)	メールアドレス	○	○(*データベース(インターネット文献探索))	△(*蔵書目録検索)	△(*Information(開館日程))		○
同志社大学総合情報センター	○(お知らせ)	○	○(総合情報センターサイトマップ)	○(このサイトについて)※大学HP全体を対象			△アイコンで表示(蔵書検索 DOORS)	△リンクのみ(開館・開室時間一覧)		
立命館大学総合情報センター	○(What's New!)	○(Top)		TEL	○(図書館等)		△(*情報検索サービス選択)	△リンクのみ(開館スケジュール)	○(情報システム)	○
関西大学図書館	○(What's new)	○	サイトマップ表示はあるがリンクなし	メールアドレス		○(各種情報)		△リンクのみ(開館日程)		
関西学院大学図書館	○(What's New)	○	○(サイト内検索)	○(連絡先とアクセスマップ)	○(神戸三田キャンパス図書メディア館)	○		△リンクのみ(開館の日時)		○

注1. ○は「当てはまる」△は「一部当てはまる」をあらわす。

注2. 実際のトップページ上の項目名が異なる場合は括弧で注記した。

注3. 複数の下部項目に分かれている場合は「/」で示した。

注4. より大きな共通の項目に含まれている場合は「*」で示した。

大学図書館トップページのガイドライン

表3 「大学図書館トップページのガイドライン」 指針全文

大学図書館トップページのガイドライン

1.2版（更新：2004-11-01）

<構 成>		
	優先度	指 針
(1)	1	<図書館資料> 図書館が所蔵する資料について、検索ツール、オンラインで利用できる一次情報、コレクション案内などを提供する。
		蔵書検索、データベース、電子ジャーナル、各種資料リスト、電子化資料（貴重書など）、コレクション案内、文献探索案内など。多様な図書館資料を効率的に利用するための各種ツールをこのカテゴリにまとめる。
(2)	1	<利用案内> 来館して利用する人のため、図書館の利用やアクセスの方法についてわかりやすく案内する。
		貸出冊数・期間、外部利用者への利用案内、開館カレンダー、フロアマップ、アクセス情報、連絡先など。図書館を利用する際の基本的な情報をこのカテゴリにまとめる。
(3)	1	<サービス一覧> 図書館の窓口で行っているサービスを案内し、ウェブページ上でも依頼を受け付ける。
		ILL、複写、予約、購入希望、レファレンスなど、発展的なサービスの案内。ウェブページからの各種依頼受付はこのカテゴリに入れる。
(4)	2	<図書館紹介> 図書館の概要や利用統計などを公開し、活動内容をアピールする。
		図書館概要、各種統計、図書館報など。利用に直接関わらないPR的な情報は、このカテゴリにまとめる。
<内 容>		
	優先度	指 針
(5)	1	<ニュース> 図書館サービスの変更・追加など、速報性の求められる情報を提供する
		解説 図書館からのお知らせ、過去のお知らせ、更新履歴など。
(6)	1	大学のトップページへリンクさせる。
		解説 大学図書館は学習、教育、研究を支援する重要な機関であり、また、図書館サイトから大学全体のトップページに向かうことも多いので、このリンクは、不可欠である。
(7)	1	サイト内検索ボックスとサイトマップを設置する。
		解説 利用者が自分の言葉で図書館サイトに掲載されている情報を探せるように、サイト内検索ボックスとサイトマップを用意する。
(8)	1	著作権関連情報を表示する。
		解説 図書館サイトに掲載されている情報や画像等の利用条件、リンクする時の条件、図書館サイトの掲載内容を利用する際の情報を表示し、さらに図書館サイトに関する質問を受け付けられるように連絡先を表示する必要がある。
(9)	1	学内の他の図書館（室）へリンクさせる。
		解説 学内の他の図書館、図書室がウェブページを公開している場合、そのトップページへリンクさせる。
(10)	2	<リンク集> 学外の図書館、他の大学や関連機関、各種情報源へのリンクを示して、ウェブサイトの利用価値を高める。
		解説 リンク集を充実させ、維持することが望ましい。所蔵状況を迅速に調べられるよう、トップページ上にOPAC検索窓などを用意する。
(11)	2	蔵書検索は重要な機能のひとつであり、トップページにOPACの検索窓を設けるか、または検索画面へのリンクを独立した項目として用意することが望ましい。
		解説
(12)	2	カレンダーを表示する。
		解説 問い合わせが多い図書館の開館日、開館時間等がわかるように当該月のカレンダーを表示する。
(13)	2	大学の情報システム部署へリンクさせる。
		解説 学内ネットワーク（ハード）、図書館が提供するデータベース等（ソフト）のどちらのトラブルでも図書館トップページから連絡先等の情報を入手できるよう、大学の情報システム部署へリンクさせる。
(14)	2	英語ページを用意する。
		解説 留学生などへの案内と、世界に向けた情報発信を行うため。

＜表 示 ・ レイアウト＞

	優先度	指 針
(15)	1	トップページと図書館サイト全体のデザイン及びページ移動等の基本操作を統一し、統一感を持たせる。
		解説 デザイン構成と基本操作に統一感があると、見た目が美しいだけでなく、利用者にとっても何がどこにあるか、どのように操作すれば良いのかがわかりやすい。
(16)	1	トップページはスクロールすることなく、一覧できるようにする。
		解説 利用者のパソコンの画面解像度を考慮して、スクロールすることなく一覧可能にする。コンパクトにまとめることによってトップページの内容が整理され、必要な情報も探しやすい。ウィンドウサイズを変えても表示が崩れにくいレイアウトを心がける。
(17)	1	トップページのコンテンツを適当な数の大項目に分類し、下位に分類される項目は大項目のもとに明示する。
		解説 コンテンツを一覧し、利用者が求める情報に容易にたどり着くためには、大見出しだけではなく、そのグループに含まれる項目もトップページに明示されることが重要である。
(18)	1	学外から利用できないデータベースなど、利用に制限のあるコンテンツはその旨明示する。
		解説 ウェブページはその機能上、誰でもどこからでもアクセス可能であるため、学外からの利用に制限があるコンテンツはその旨明示する。
(19)	2	利用者の見やすさを考慮し、リストやアイコンを用いて適切に項目を配置し、画像や色を必要以上に多用しない。
		解説 見やすく使いやすい、デザイン的に優れたトップページは、利用者に強くアピールするものである。
(20)	2	OPAC等の使用頻度の高いコンテンツや速報性が重要なニュースなどはトップページの上部に表示する。
		解説 利用者の求めている情報、図書館の伝えたい情報を利用者に効率的に伝える。
(21)	2	大学のトップページや大学の他の組織のトップページとデザイン・校章・スクールカラーなどで統一感を持たせる。
		解説 図書館も大学の組織の一つであるため、組織の連携や一体感を視覚的に表現する。

< 技 術 >		
	優先度	指 針
(22)	1	ブラウザのバージョンやプラグインなどに依存するFlash、JavaScriptなどや、高度な技術は使わない。
		解説 トップページは、利用者のアクセス環境に依存しないで表示可能なページとし、さらにメンテナンスを容易にする。
(23)	1	ファイル容量の大きい画像は使わず、また、無駄なタグを挿入する編集ソフトの使用を避け、ファイルの容量は小さくする。
		解説 ブラウザでの読み込みをすばやく行えるようにし、メンテナンスを容易にするためである。画像は、表示サイズに合わせて画像編集ソフトなどでファイル容量を小さくしておく。しかし、写真などは訴求力を高めるため使用したほうがよい。
(24)	1	メンテナンスが容易なように、凝ったデザイン、複雑な階層構造、複雑なファイル構成にしない。
		解説 担当者が交替しても日常的にメンテナンスできるようにしておくため。経費がかさみ、変更に時間のかかる外注を行わずにメンテナンス可能とするため。
(25)	1	アクセス解析を行う。
		解説 図書館トップページの維持、管理にはアクセスログの解析を行う必要がある。
(26)	2	アクセシビリティや他のウェブページからのリンクが不便なフレームなどの機能は使わない。
		解説 アクセシビリティに難があるため。リンクしたり、引用する場合に直接のURLを指定しにくい。
(27)	2	トップページはスタイルシートなどを用いて見やすい表示とする。ただし、あまり小さいサイズの文字は指定しない。
		解説 トップページは求める情報が探しやすい表示とするためにスタイルシートやXHTMLを用いる。ただし、アクセシビリティを考慮して、文字サイズや行間は、利用者が変更できるように相対値で指定する。また、古いバージョンのブラウザでは意図した通りに表示されない点にも配慮する。
(28)	2	動画や音声は使わない。
		解説 利用者にとって無意味な動画や音声は使わず、閲覧しやすいウェブページにする。

ンク」は、大学トップページや学内のほかの図書館へのリンクと比較すると、掲載しているところは少ない。しかし、ほとんどの大学図書館では、学内ネットワークに接続されたパソコンやデータベースなどを利用に供しているはずである。したがって、ネットワーク関係のトラブルや質問などに主に対応する、図書館以外の部署の連絡先も表示しておくことが望ましいだろう。

「8：著作権関連情報の表示」については、ガイドラインにおいて優先度が高いものであるが、明示している図書館は3分の1ほどで、ほかはメールアドレスや問い合わせ先へのリンクを載せるのみであった。

「10：リンク集」「14：英語ページ」は3分の2以上の図書館で掲載されており、ウェブサイトの利用しやすさや価値の向上が図られている。「7：サイト内検索とサイトマップ」は、約半数の図書館で両方またはいずれかが掲載されていた。

「11：OPAC検索窓等」は、独立した項目として表示しているのは3分の1ほどであった。特定の分類の下位項目として掲載しているところが多いが、初めてトップページを見る場合には目につきにくい可能性がある。「12：カレンダー」は、カレンダーそのものを表示しているところは少ないが、当日の開館時間が表示されている場合にはある程度利用者の便宜を満たしているとも言える。所蔵調査や開館日・時間は、利用者から電話などで問い合わせを受けることが多い。「構成」の各分類中の要素と重複しているため優先度は2であるが、トップページ上の見つけやすい場所に表示することで、利用者が必要な情報を探しやすくなるだろう。

3.3 「表示・レイアウト」

利用者が求める情報を探しやすい、また、デザイン的にも優れたトップページとなることを目指した指針である。ウェブサイト全体のデザイン・操作の統一、トップページのどこにどんな情報が置かれているかが一目でわかるような一覧性など、主にユーザビリティに関わるものは、ウェブサイトの使いやすさに直結するため、優先度は1とした。その上で、掲載内容の配置、色や画像の使い方、大学のウェブサイトとの共通イメージの演出など、デザイン的に優れたトップページとするための指針を示した。

ウェブサイトの価値は掲載内容にあるとは言え、初めて訪れた利用者が実際にそのウェブサイトを利用するかどうかは、トップページのデザインから得る印象に大きく左右される。内容への興味をかきたてるような、デザイン的に優れたトップページとす

ることで、利用者に大学図書館サイトの存在を強くアピールすることができるだろう。

3.4 「技術」

トップページはウェブサイトを利用する際最初に表示されるページであり、多くの人に利用されるためには、どんな利用環境でも快適に表示されることが必要である。また、更新の早さや経費の面から、外注せず図書館員自身でメンテナンス可能なものにしていくことが望ましい。このような観点から、特殊機能の不使用やメンテナンスが容易なページ作りなどを指針として取り上げた。

後述する「ユーザビリティ」「アクセシビリティ」への配慮は、ウェブページを作成する際の重要な課題である。ガイドラインにすべてを反映することは難しいが、「表示・レイアウト」グループと共に、最低限必要な部分には言及している。

4. 「大学図書館トップページのガイドライン」への反響と今後の展望

2004年6月28日、ガイドライン1版をウェブサイトにて公開した。公開より原稿執筆時（2004年9月現在）までにいくつかの貴重なご指摘をいただき、それぞれ検討した上で、随時ガイドラインの修正・更新作業を行っている。具体的には優先度順の並べ替え、項目の名称変更、事例追加などを行った。

また、「表示・レイアウト」や「技術」に関しては、いただいたご指摘をもとに1.2版（2004年9月27日公開）に反映した。ウェブページを作成する際には、使いやすさ、学習しやすさ、操作の効率性などの「ユーザビリティ」と併せて、どんな人にも使えるかどうかの「アクセシビリティ」などを考慮しなければならないだろう¹⁰⁾。例えば「日本工業規格（JIS）JISX8341-3：2004 高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ」¹¹⁾では“5.2 構造及び表示スタイル”において“d) 表組みの要素をレイアウトのために使わないことが望ましい”とされ、表の要素や属性をレイアウト目的で使用した場合、音声ブラウザが作成者の意図しない順序で読み上げる可能性があるため、読み上げ順序を考慮して表の要素を用いることの配慮が求められている。

ウェブページの大きさについては、パソコンの画面解像度が1024×768ピクセルが大勢となっている状況¹²⁾でも、800×600ピクセルへの配慮も必要になる。また、携帯端末向けのウェブページの作成も必要な場面があろう。

さらに、利用者の使っているパソコンの性能や、ウェブページを利用するスキルのレベルへの配慮も必要になる。

このように課題は尽きないが、もとより、今回作成したガイドラインは完成形ではない。ウェブサイトでの公開から3ヵ月で、ガイドラインはすでに2度の修正・更新作業を行った。今回の報告により、さらにご指摘をいただければ幸いである。

今後も、寄せられたご指摘や利用者の嗜好の変化、技術環境の進展などに応じて、修正を重ねていきたい。そして、この「大学図書館トップページのガイドライン」が、各大学図書館トップページの改善・発展に資するものとなることを願って止まない。

参考文献

- 1) 檜垣泰彦, 有岡圭子, 池田宏明. “千葉大学附属図書館の利用者のための情報システム (culis)” [参照 2004.11.01] (URL <http://www.ll.chiba-u.ac.jp/culis/paper/23rd-jus/>)
 - 2) 上田修一 “大学図書館OPACの動向” [参照 2004.9.24] (URL <http://www.slis.keio.ac.jp/~ueda/lib-www/libwwwstat.html>)
 - 3) “大学図書館トップページのガイドライン” [参照 2004.11.01] (URL <http://www.slis.keio.ac.jp/~ueda/univlibguide/toppageguideline.html>)
 - 4) Still, Julie ed. *The library Web* Medford, NJ, Information Today, 1997.
 - 5) Stover, Mark; Zink, Steven D. “World Wide Web home page design: patterns and anomalies of higher education library home pages.” *RSR: Reference Services Review* 24(3), 1996, pp.7-20
 - 6) Cohen, Laura B.; Still, Julie M. “A comparison of research university and two-year college library web sites: content, functionality, and form.” *College & Research Libraries* 60(3), 1999.5, pp275-289.
 - 7) Tolppanen, Bradley P.; Miller, Joan; Wooden, Martha H. “An examination of library World Wide Web sites at medium-sized universities.” *Internet Reference Services Quarterly* 5(2), 2000, pp5-17.
 - 8) Song, Yuwu. *Building better Web sites: a how-to-do-it manual for librarians* New York, Neal-Schuman, 2003.
 - 9) 富士通株式会社 “富士通ウェブ・アクセシビリティ指針” [参照 2004.9.24] (URL <http://jp.fujitsu.com/webaccessibility/>)
 - 10) U-Site “Jakob Nielsen 博士の alertbox” [参照 2004.9.24] (URL <http://www.usability.gr.jp/alertbox/index.html>)
 - 11) JIS は、日本工業標準調査会 (URL <http://www.jisc.go.jp/>) の「JIS 検索」から「X8341-3」で検索することにより全文を閲覧できる。[参照 2004.9.24]
 - 12) Web 資料館—アクセス解析レポートから検索エンジン対策まで—“画面解像度のシェア” [参照 2004.9.24] (URL <http://www.zerotown.com/webdata/index.html>)
- URL リスト [すべて参照 2004.9.24-11.01]
- ・ 図書館リンク集
 - 東京工業大学附属図書館 “日本国内の大学図書館関係 WWW サーバ” (http://www.libra.titech.ac.jp/libraries_list.html)
 - 日本図書館協会 “図書館リンク集 大学図書館” (<http://www.jla.or.jp/link/univ.html>)
 - 筑波大学附属図書館 “図書館リンク集: Libraries in the World 世界の図書館” (http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/other/other_libs.html)
 - 農林水産研究情報センター “Jump to Library! (In Japan)” (<http://ss.cc.affrc.go.jp/ric/opac/opac.html>)
 - 日本医学図書館協会 “加盟館一覧” (<http://www.soc.nii.ac.jp/jmla/jmlalink/>)
 - 上田修一 “日本の大学図書館, 公共図書館とのリンク + OPAC” (<http://www.slis.keio.ac.jp/~ueda/libwww/libwww.html>)
 - ・ 「構成」「内容」調査対象図書館
(国立・公立・私立別に北から南の順で配列)
 - 北海道大学附属図書館
(<http://www.lib.hokudai.ac.jp/>)
 - 東北大学附属図書館
(<http://www.library.tohoku.ac.jp>)
 - 東京大学総合図書館
(<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sogoto/>)
 - 名古屋大学附属図書館
(<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/>)
 - 京都大学附属図書館
(<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/homejm.html>)
 - 大阪大学附属図書館
(<http://wsv.library.osaka-u.ac.jp/index.html>)
 - 九州大学附属図書館
(<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/index.html>)
 - 東京都立大学付属図書館
(<http://www.lib.metro-u.ac.jp/>)
 - 横浜市立大学学術情報センター
(<http://opac.yokohama-cu.ac.jp/>)
 - 名古屋市立大学総合情報センター
(<http://www.cc.nagoya-cu.ac.jp/>)
 - 大阪市立大学学術情報総合センターライブラリーサービス

(<http://libser.media.osaka-cu.ac.jp/>)

早稲田大学図書館

(<http://www.wul.waseda.ac.jp/index-j.html>)

慶應義塾図書館

(<http://www.mita.lib.keio.ac.jp/index.html>)

明治大学図書館 (<http://www.lib.meiji.ac.jp/>)

立教大学図書館 (<http://opac.rikkyo.ac.jp/>)

法政大学図書館

(<http://www.hosei.ac.jp/general/lib/>)

同志社大学総合情報センター

(<http://www.doshisha.ac.jp/gakujo/>)

立命館大学総合情報センター

(<http://www.ritsumeit.ac.jp/www-lib/index.html>)

関西大学図書館

(<http://www.kansai-u.ac.jp/Library/home.htm>)

関西学院大学図書館

(<http://library.kwansei.ac.jp/>)

SATO, Chiharu / MORISHIMA, Momoko / SATO, Kuniko /
HASEGAWA, Toyohiro / UEDA, Shuichi

Guidelines for the Front Pages of University Library Websites

< 2003.10.3 受理 さとう・ちはる 慶應義塾大学文学研究科図書館・情報学専攻情報資源管理分野, もりしま・ももこ 同左, さとう・くにこ 同左, はせがわ・とよひろ 同左, うえだ・しゅういち 慶應義塾大学文学部 >

SATO, Chiharu / MORISHIMA, Momoko / SATO, Kuniko / HASEGAWA, Toyohiro / UEDA, Shuichi

Guidelines for the Front Pages of University Library Websites

Abstract: Many academic librarians have been creating their official websites individually, without any specific rules. Nowadays the websites need to include more information, and also should be attractive for the users. Also, the front page should be more unique to represent the university library. There should be a higher standard for creating better front pages. We researched and analyzed the front pages of major university libraries, and as a result, we created ^{*)} Guidelines for the Front Pages of University Library Websites.^{†)} It contains 28 items which divided into 4 categories are: structure/organization, contents, display/layout, and technology.

Keywords: University Libraries / Websites / Top Pages / Guidelines / Internet / Library Services